

研究代表者 所属・職：スポーツ科学部・教授

氏 名：新井 博

研究課題名：日本スキー黎明期における発祥地から全国的普及について

研究の概要

日本スキーの黎明期（明治末-大正初期）に関する歴史研究は、オーストリアの軍人レルヒによる導入を中心にした研究が殆どである。だが導入以後、短期間で日本の広範に普及したことに触れた研究は極めて少ない。

本論では数年間で全国的に普及した原因を探るべく、高田第 13 師団（高田師団）が明治 44 年から大正 2 年に渡満するまでの間に実施した普及の方法を検討している。また、高田から県外への普及の中心となった越信スキー倶楽部と日本スキー倶楽部の誕生について検討している。

資料は、師団の普及について高田のレルヒ記念館に所蔵された当時の師団の軍事資料、また県外への普及について東北、信越、北陸地方の郷土資料を使用している。

達成状況・成果内容

成果の概要

1 普及のためのスキー講習

明治 43 年 12 月陸軍省から高田師団の参謀長渡辺小太郎大佐に届いた「瑞典国軍隊用スキー実験の通牒」から、軍隊や市民へのスキーの効果調べるために、レルヒの講習が始まる。師団の堀内大佐、山口十八参謀以下 12 名（スキー研究将校）は 1 月から 3 月にかけてレルヒの講習を受けて報告をまとめ、翌年 3 月に陸軍省の高級副官竹島に送っている。さらに長岡外史師団長の企図から、市民への普及が行われている。

県内中等学校の体操教師への講習

レルヒの講習中の 2 月 15 日から、新潟県と長野県知事の協力で中等学校の体操教師が高田に集められ、5 日間の講習が実施された。県全域から 20 名が参加している。講習後には、教師や研究将校たちによる初の「高田スキー倶楽部」が誕生し、高田を中心に練習会が行われた。

明治 45 年 1 月から研究将校の普及と越信スキー倶楽部誕生

翌年 1 月から講習を受けた研究将校たちによる全国講習会が高田と小千谷で開催され、軍人や市民 125 名が県内外から参加している。講習会修了後、2 月 12 日に新たに全国的な普及を目的とした「越信スキー倶楽部」が高田スキー倶楽部に代わり誕生している。高田と小千谷の講習修了者は講師として、同倶楽部の高田支部に登録されたのである。

大正 2 年日本スキー倶楽部高田支部の第 1 回講習

大正元年 12 月越信スキー倶楽部は「日本スキー倶楽部」と改名すると、新たに「スキー講習規定」を決定し、講習会を年内に約 3 回開催することになった。大正元年末～大正 2 年初めに、第 1 回スキー講習会が高橋翠郊教官により実施されている。学習院、慶応大学、中央幼年学校の 11 名、地方から 7 名、軍隊 1 名の 19 名が参加している。

大正 2 年日本スキー倶楽部高田支部の第 2 回講習

1月15～24日に、第2回スキー講習が開催され、高橋翠郊・金井勝三郎・高橋良が教官を務めた。長野水道部所員1名、長野県木会山林学校1名、高田市小学校教諭3名、高田郵便局員4名、無職1名、長岡市市民1名、横浜会社員1名、陸軍軍人1名、直江津小学校教諭1名の14名が参加している。受講者の高田市小学校教諭の阿部正量と田中軍治は技術や知識共に優れ、以後教官として長く活躍している。

大正2年日本スキー倶楽部高田支部の第3回講習

第3回スキー講習は2月1日から実施され、高橋翠郊・金井勝三郎の指導の下で8名が講習を受けている。長野大林区署2名、中頸城郡有恒学舎教員1名、材木商1名、高田市民1名、岩手農業1名、長野県市民2名が講習を行けている。

2 越信スキー倶楽部・支部の誕生

越信スキー倶楽部の誕生

明治44年10月の越信スキー倶楽部設立委員会の席上、師団側は「スキーは民間人にも必要欠くべからざるものである・・・倶楽部を組織して、普及をはかる」とした。その後、翌2月11日の発会式前までに、規約・人事（会長：長岡師団長、理事長：森川少将、理事：新潟県事務官、長野県事務官、郡・市長、各学校長、各新聞社社長、スキー研究委員：山口・鶴見）が決められた。

2月11日に既存の高田スキー倶楽部を解散して、越信スキー倶楽部が誕生した。倶楽部は支部組織で活動し、体力・気力の育成を目的として、雑誌の発刊、器材の研究、教官の派遣、器材製造販売を義務とした。

長岡支部の誕生

長岡市では、明治45年2月3日越信スキー倶楽部の長岡支部が誕生している。長岡中学校では、明治44年に外川幾太郎を同45年に治田虎治郎を高田の講習会に送り、用具も高田から取り揃えて指導を始めている。教育界に影響力を持つ外川は、市全体に広めた。支部には、石油会社、中学校、銀行、警察署、小学校、商業学校、市役所、北越新報社、越佐から120名の会員が存在した。

中魚沼郡支部の誕生

長野県に接している中魚沼郡に、明治45年3月10日越信スキー倶楽部中魚沼郡支部が誕生している。同地から二宮司馬治（十日町警察署巡查）と村山眞木（中魚沼郡教育会長）が明治45年小千谷での講習会に参加し、帰ると村山は講習会を開催して広めている。雪深い小千谷ではスキーへの理解が早く、警察署、実業学校のメンバーが中心となり支部の発会式をあげている。

月越信スキー倶楽部松之山支部の誕生

南東部中魚沼郡の隣に位置した東頸城郡に、明治45年に越信スキー倶楽部松之山支部が誕生している。和栗應徳（浦田口小学校）、西山茂平治（熊沢助教諭）、堀松蔵（東頸城郡視学）は、明治45年1月の第4回講習会（高田）に参加スキーを広めている。支部で鶴見大尉を迎えて明治45年3月10日に講習会が開催された際、倶楽部の立ち上げの話が持ち上がり支部の誕生となった。

3 日本スキー倶楽部・支部の誕生

越信スキー倶楽部の研究主任の山口十八大尉は、倶楽部の名称は全国への普及をしている実態と合致しておらず、名称を「日本スキー倶楽部」とする準備を進めている。大正元年12月に名称変更の役員会議が開催された。目下スキーは各府県に普及し東北各県では実用化されてきており、今後日本スキー倶楽部が師団のやり方を引き継ぎ、更に器材研究や技術研究に力を注ぎ、競技大会や講習会を開催するこ

とを決定している。

秋田支部の誕生

秋田県に元年12月秋田支部が誕生している。スキーに関心を持つ山根武亮第8師団師長は明治44年2月高田師団を視察した際、必要性を強く感じ、高田の講習会に将校の派遣を決めた。第8師団から第31連隊の岩館新太郎中尉、第52連隊の油川貞策中尉、第5連隊の市嶋敬太郎中尉、第17連隊の村野誠一中尉を、翌明治45年1月の第4回講習会に参加させている。

岩館中尉と市嶋中尉は、連隊で講習したが、村野中尉は連隊だけでなく市民にも講習を行った。秋田県の森知事は、訓令を出して県内での普及を促進した。大正元年12月に越信スキー倶楽部秋田支部が誕生したのである。

飯山支部の誕生

長野県の飯山中学校の体操教師市川龍讓は、1月の高田講習会の乙種に参加している。地元で積極的に広め、仲間をまとめて公友会スキー部を組織していた。さらに、仲間の小賀坂が「オガサカスキー」として用具の製造を始めると、飯山ではさらに盛んになり、飯山支部が2月8日に誕生した。

研究成果の発表

高田の上越市立歴史博物館で発行した『日本スキーの黎明』（令和4年9月）に、内容を紹介している。

また、京都の日本文化センター（日文研共同研究「文明としてのスポーツ/文化としてのスポーツ」）からの依頼を受けて、令和5年2月10日「日本へ紹介されたスキーの変容」のテーマで、上記の内容を含めてセンターで講演を実施している。